

2019年度 川崎医科大学 前期理系 第1問

**問題** 半径  $\frac{1}{\sqrt{3}}$  の円に内接する四角形 ABCD において、三角形 ABD は正三角形であるとする。線分 AC と線分 BD の交点を E とし、点 E は BD を 1:2 に内分する点であるとする。

(1)  $|\vec{AB}| = \boxed{\text{ア}}$ ,  $|\vec{AD}| = \boxed{\text{イ}}$ ,  $\vec{AB} \cdot \vec{AD} = \frac{\boxed{\text{ウ}}}{\boxed{\text{エ}}}$  である。

(2)  $\vec{AE} = \frac{\boxed{\text{オ}}}{\boxed{\text{カ}}} \vec{AB} + \frac{\boxed{\text{キ}}}{\boxed{\text{ク}}} \vec{AD}$  であり、 $|\vec{AE}|^2 = \frac{\boxed{\text{ケ}}}{\boxed{\text{コ}}}$  である。

(3) 点 A を通る直径の他端を F とすると、

$\vec{AF} = \frac{\boxed{\text{サ}}}{\boxed{\text{シ}}} \vec{AB} + \frac{\boxed{\text{ス}}}{\boxed{\text{セ}}} \vec{AD}$  であり、 $\vec{AF} \cdot \vec{AE} = \boxed{\text{ソ}}$  である。

実数  $t$  を用いて  $\vec{AC} = t\vec{AE}$  とおくと、 $\vec{AC} \cdot \vec{FC} = \boxed{\text{タ}}$  であるから、 $t = \frac{\boxed{\text{チ}}}{\boxed{\text{ツ}}}$  となる。

(4) 正三角形 ABD の面積は  $\frac{\sqrt{\boxed{\text{テ}}}}{\boxed{\text{ト}}}$  であり、四角形 ABCD の面積は

$\frac{\boxed{\text{ナ}} \sqrt{\boxed{\text{ニ}}}}{\boxed{\text{ヌネ}}}$  である。